

東京湾から採集されたオイワケゴカイ（環形動物門，多毛綱，ゴカイ科）

西 栄二郎

Eijiroh Nishi: Occurrence of *Namanereis littoralis* (Grube) Species Group (Nereidae) in Tokyo Bay (Annelida: Polychaeta)

Summary: In the littoral zone of Nojima, Yokohama, Hamarikyu Park, mouth of Sumida River, and Funabashi Fishing-port, the nereid polychaete *Namanereis littoralis* (Grube) species group occurred.

ゴカイ科の Namanereidinae 亜科は熱帯から亜熱帯を中心に分布し、日本からはオイワケゴカイ *Namanereis littoralis* (Grube) species group と *Namalycastis hawaiiensis* (Johnson, 1903) の2種が知られ (Glasby, 1999; 西ほか, 2002), 日本近海では台湾から *N. longicirrus* Takahashi, 1933 が, 中国近海から *N. abiuma* (Grube) species group が知られている (Takahashi, 1933; Glasby, 1999)。オイワケゴカイは Okuda (1937) によって北海道忍路産の個体を元に *Lycastopsis augeneri* として記載され, 同亜科の中では珍しく北方に産する種である。Glasby (1999) は世界中の同亜科の再検討を行い, *Lycastopsis* 属は *Namanereis* 属のシノニムであることを明らかにし, また, *L. augeneri* Okuda, 1937 は *Namanereis littoralis* (Grube) species group の一種としている。この種は北海道の各地や三浦半島の佐島 (今島, 1996), 三河湾 (藤岡・木村, 2000) などから記録されている。今

回, 東京湾内から多くの個体が採集されたので, 形態と分布について記述する。

採集地と方法

東京湾奥の船橋漁港 (図1A) と隅田川河口の浜離宮公園内 (図1B), 横浜市野島 (図1C) の潮上帯から潮間帯において, スコップを用いて多毛類の採集を行った。採集した虫体は実験室内において10% 海水ホルマリンで固定し, 数日後に70% アルコールに置換した。今回使用した標本はすべて千葉県立中央博物館分館海の博物館 (登録コードはCMNH-ZW) に登録・保管されている。

結果と考察

オイワケゴカイ *Namanereis littoralis* (Grube) species group 図2

Lycastopsis augeneri Okuda, 1937: 307-309.

- Imajima, 1972: 39-40.- 今島, 1996: 107.

Namanereis quadraticeps. Imajima and Hartman, 1964: 142-143. - 奥田・今島, 1964: 508.

検討標本. CMNH-ZW01428 (4 個体), 東京湾奥部隅田川河口, 東京都立浜離宮公園内水上バス乗り場下, 潮上帯, れき, 泥底, 径10から20 cm の転石の裏側より採集, 2002 年9月8日, 西栄二郎採集。- ZW01431 (7 個体), 採集地, 採集者は同上, 2002 年9月5日。- ZW01432, 東京湾奥部千葉県船橋市船橋漁港内, 潮上帯, 打ち上げられたゴミの山積する砂れき底の小石の裏側より採集, 2 個体, 西栄二郎採集。- ZW01433 (19 個体), 横浜市野島, 野島水路の夏島側, 泥底, アシ原横の径約20から30 cm の石の裏側から採集, 2002 年10月18日, 西栄二郎採集。

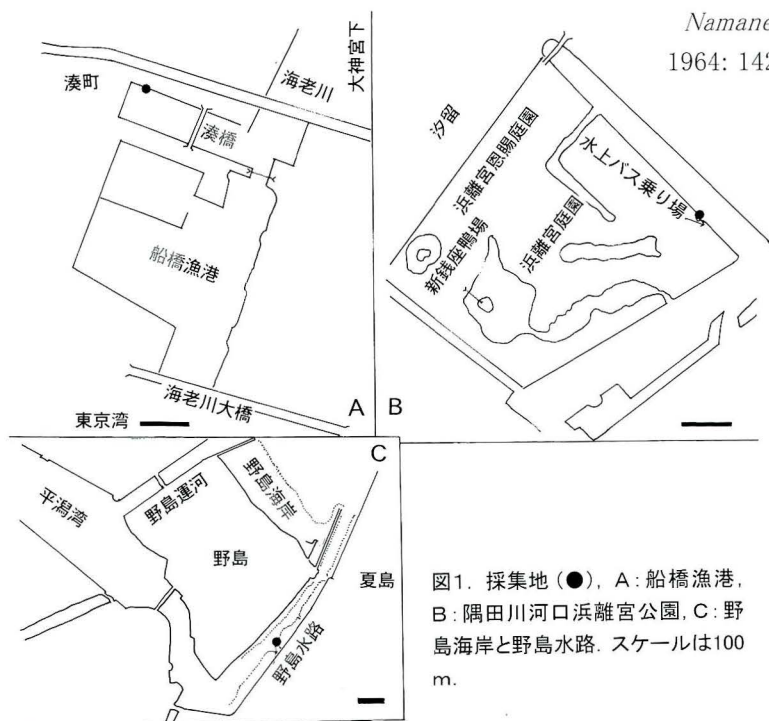


図1. 採集地 (●), A: 船橋漁港, B: 隅田川河口浜離宮公園, C: 野島海岸と野島水路。スケールは100 m.

形態. 体長10–22mm。疣足を含まない体幅約0.6–0.8mm, 疣足を含む体幅約0.8–1.0mm。体節数60から120。体色は薄い黄褐色で, 生時は半透明な部分が多い。前口葉は半球形で, 長さより幅が広い(図2A)。前口葉先端の感触手(図2A)は一对で短い角状。眼点は2対で, 小さく, レンズを欠き, 後半の対は前口葉後端に位置し, 前方の対よりも小さい(図2A)。副感触手は太く, 感触手よりも長い(図2A, B)。感触鬚は3対あり, 短く, 棍棒状(図2A, B)。吻の顎は6, 7または8歯を備える(図2C)。顎片はない。疣足は背

足枝を持たず, 1本の背足刺が埋没している(図2E)。背触糸は短く円錐状(図2E)。腹足枝は円錐状, 足刺は黒色で各足枝に1本, 7, 8本の短複剛毛(図2F)と2, 3本の長複剛毛(図2G)を持つ。短複剛毛の先端には10から12個の櫛状歯がある(図2F)。肛触鬚は1対で腹側にある(図2D)。

分布. 北海道から本州沿岸に分布。満潮線付近の腐敗した海藻の下面や泥質帯でイソヒメミズと共に見いだされるという(奥田・今島, 1964)。内田(1992; 326)は「潮間帯上部～潮上帯の砂中に棲み, 打ち上げられた海藻の堆積中にイソミズとともによくみられる」と記している。今回採集された場所は海藻の打ち上げなどは無く, 有機物片がさほど多いとは考えられない。有機物片の多い海岸との分布密度の比較などにより, 生息場所の嗜好性などが明らかにされるであろう。イソヒメミズは北海道や本州沿岸に分布し(大垣, 1984; 西村・内田, 1992), 潮間帯から潮上帯に群棲することがある(西村・内田, 1992)。イソミズも横浜沿岸からの記録があり(羽根田・熊谷, 1939; 西, 未発表), 海藻の打ち上げやイソヒメミズ, イソミズを目印にすれば, 今後も各地で記録されると考えられる。

謝 辞

本研究の一部は, (財)神奈川科学技術アカデミー(KAST)からの助成によって行われた。原稿に対して, 査読者の方々から多くの有益なご指摘を受けた。ここに記して, 深謝したい。

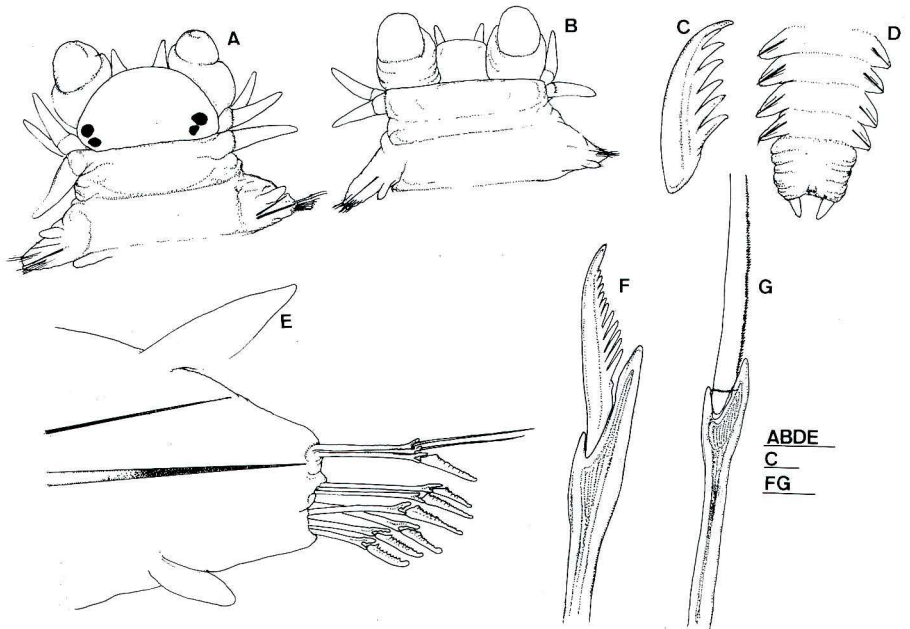


図2. オイワケゴカイ。野島水路産, CMNH-ZW01433。A, 体前部背面。B, 体前部腹面。C, 顎。D, 体後端部。E, 体中部の疣足と剛毛束。F, 短複剛毛。G, 長複剛毛。スケールは0.25mm (A, B, D), 0.1mm (C), 0.05mm (E), 0.01mm (F, G)。

文 献

- 藤丘エリ子・木村妙子, 2000. 三河湾奥部汐川干潟の1998年春季における底生動物相。豊橋市自然史博研報, (10): 31–39。
- Glasby, C. J., 1999. The Namanereidinae (Polychaeta: Nereididae). Part 1, Taxonomy and Phylogeny. Rec. Austr. Mus., Suppl., 25: 1–129。
- 羽根田弥太・熊谷信行, 1939. ウミミズ *Pontodrillus matsushimensis* Izuka の発光物質に就て。日本生理学雑誌, 4(5): 328–333。
- Imajima, M., 1972. Review of the annelid worms of the family Nereidae of Japan, with descriptions of five new species or subspecies. Bull. Nat. Sci. Mus., Tokyo, 15(1): 37–153。
- 今島 実, 1996. 環形動物多毛類。シリスゴカイ科, ゴカイ科, シロガネゴカイ科, スピオゴカイ科, タケフシゴカイ科, カンザシゴカイ科。i–iii+530pp., 生物研究社, 東京。
- Imajima, M. and O. Hartman, 1964. The polychaetous annelids of Japan. Part 2. Allan Hanc. Found. Publ., Occas. Pap., 28: 239–452。
- 西栄二郎・加藤哲哉・高島義和, 2002. 多毛綱。沖縄の陸水生物。西田睦・鹿谷法一・諸喜田茂充編著, 89–97pp., 東海大学出版会, 東京。
- 西村三郎・内田紘臣, 1992. 環形動物門。貧毛綱。374–376pp., 日本海岸動物図鑑I。西村三郎編著, 保育社, 大阪。
- 大垣 俊一, 1984. 島本島西岸の海岸動物相, 1969年と1984年。南紀生物, 26(2):77–85。
- Okuda, S., 1937. Occurrence in North Japan and of a new species of an aberrant polychaete genus, *Lycastopsis*. Annot. Zool. Japon., 16: 306–309。
- 奥田四郎・今島実, 1964. オイワケゴカイ。p.508, 62図, 新日本動物図鑑(上巻)。北隆館, 東京。
- Takahasi, S. K. 1933. A new polychaete from Formosan freshwater. Ann. Zool. Japon., 14: 41–46。
- 内田 紘臣, 1992. 環形動物門。多毛綱。310–373pp., 日本海岸動物図鑑I。西村三郎編著, 保育社, 大阪。

(横浜国立大学教育人間科学部)